

令和元年 10 月

令和元年夏期における山岳遭難の概況

(令和元年 7 月～ 8 月)



静岡県警察本部

地域部地域課

1 静岡県における夏期（7月1日～8月31日）の山岳遭難発生状況

(1) 発生件数等

区分	発生件数 (件)	遭難者数						
		(人)	死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出	
県下全体	58 (-10)	68 (-7)	1 (-2)	0 (-2)	17 (+6)	9 (-16)	41 (+7)	
内訳	富士山	43 (-8)	49 (-9)	1 (-1)	0 (-1)	15 (+6)	8 (-12)	25 (-1)
	南アルプス	10 (-2)	10 (-2)	0 (±0)	0 (-1)	2 (±0)	0 (-4)	8 (+3)
	その他	5 (±0)	9 (+4)	0 (-1)	0 (±0)	0 (±0)	1 (±0)	8 (+5)

※ 括弧内は前年同期比

(2) 特徴

- 発生件数・遭難者数ともに前年同期比で1割以上の減少
- 場所別では、富士山が7割超
- 態様別では、転倒と病気で約6割

2 富士山における開山期（7月10日から9月10日）の山岳遭難発生状況

(1) 発生件数等

区分	発生件数 (件)	遭難者数					
		(人)	死亡	行方不明	負傷		無事救出
					重傷	軽傷	
令和元年	46	53	1	0	14	10	28
前年同期比	-12	-21	-2	-1	+5	-10	-13

(2) 特徴

- 富士山が世界文化遺産に登録された平成25年以降、発生件数・遭難者数が最少

3 山岳遭難の防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備、さらには、体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力等の準備不足が原因で発生していることから、遭難を防ぐためには、以下のような点に留意する必要がある。

(1) 的確な登山計画と万全な装備品の準備

気象条件、体力、技術、経験、体調等に見合った山を選択し、登山日程、携行する装備品、食料等に配意し、安全な登山計画を立てる。

登山計画を立てるときは、滑落等の危険箇所や、トラブル発生時に途中から下山できるルート（エスケープルート）等を事前に把握する。

また、登山予定の山の気候に合った服装や登山靴、雨具（レインウェア）、石や滑・転落時に頭部を守るためのヘルメット、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した場合に備え、助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）やツェルト（簡易テント）、非常食等を準備するなど、装備を万全に整える。

なお、単独登山は、グループ登山に比べてトラブル発生時の対処が困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

(2) 登山計画書の提出

登山計画書は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合の素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであるため、作成した登山計画書は、一緒に登山する仲間と共有すると共に、家族や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

(3) 道迷い防止

地図の見方やコンパスの活用方法を習得し、登山には地図やコンパス等を携行して、常に自分の位置を確認・把握するよう心掛ける。

なお、GPS機器等位置情報を取得することができる機器を活用することで、より正確な位置を把握することができるため、道迷いの防止や、遭難発生時の迅速な場所特定につながる。

(4) 滑落・転落防止

日頃から手入れされた登山靴やピッケル、アイゼン、ストック等の装備を登山の状況に応じて的確に使いこなすとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心掛ける。

また、滑落・転落する恐れがある場所を通過するときは、滑落・転落や上方からの落石に備え、必ずヘルメットを着用する。

(5) 的確な状況判断

霧（ガス）や悪天候による視界不良や体調不良時等には、道に迷ったり、滑落等の危険が高まることから、「道に迷ったかも」と思ったら、闇雲に進むことなく、今歩いてきた道（トレース）を辿り、正規の登山道まで引き返すなど、状況を的確に判断するとともに、早めに登山を中止するよう努める。

(6) 富士登山の注意事項

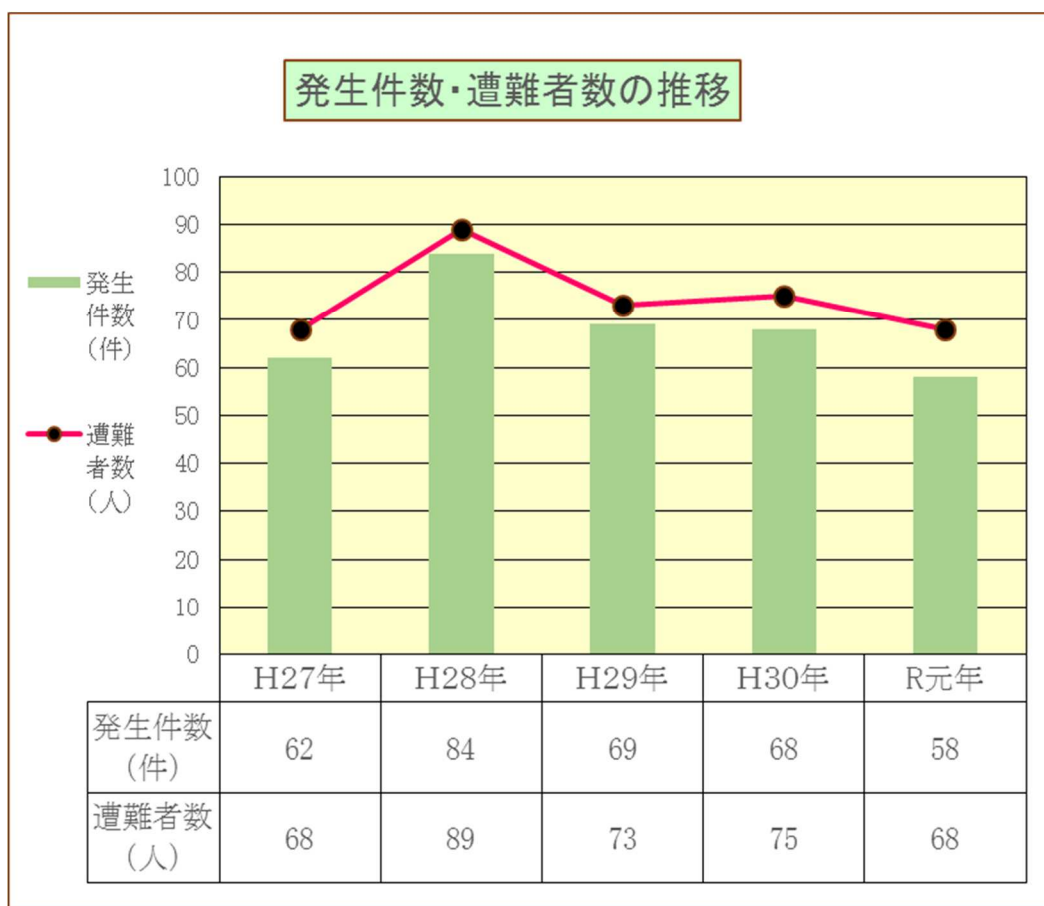
標高の高い富士山は平地との気温差が大きく、夏期においても山頂付近で低体温症となり救助される者が多発することから、十分な防寒対策が必要となる。（標高が100メートル高くなるごとに気温は0.6度低下するため、海拔0メートルの平地より富士山山頂の気温は約23度低い）

また、富士山では高山病等のおそれがあるため、万全の体調（寝不足、風邪気味を避ける）で登山に臨み、積極的に水分を取るなど、発病への予防対策も必要である。

4 静岡県における夏期の山岳遭難発生状況

(1) 過去5年の発生状況

区分	発生件数 (件)	遭難者数 (人)	遭難者数				
			死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出
平成27年	62	68		1	9	17	41
平成28年	84	89	2		13	26	48
平成29年	69	73	1	1	13	18	40
平成30年	68	75	3	2	11	25	34
令和元年	58	68	1		17	9	41



(2) 山系別発生状況

区分	発生件数 (件)	(人)	遭難者数					
			死亡	行方 不明	負傷		無事 救出	
					重傷	軽傷		
合計	58	68	1		17	9	41	
前年比	-10	-7	-2	-2	+6	-16	+7	
富士山	富士宮口	23	24			11	6	7
	須走口	7	7			2	1	4
	御殿場口	9	14	1		1	1	11
	その他	4	4			1		3
	小計	43	49	1		15	8	25
	前年比	-8	-9	-1	-1	+6	-12	-1
南アルプス	聖岳	2	2					2
	赤石岳	3	3			1		2
	荒川岳	1	1					1
	南ア・その他	4	4			1		3
	小計	10	10			2		8
	前年比	-2	-2	±0	-1	±0	-4	+3
その他	安倍山系	3	4				1	3
	天城山系	1	2					2
	愛鷹山系							
	天子山系	1	3					3
	北遠山系							
	奥大井山系							
	その他							
	小計	5	9				1	8
前年比	±0	+4	-1	±0	±0	±0	+5	

※ その他

富士山頂のお鉢巡りや宝永火口付近及び各五合目より標高が低い場所等をいう。

(3) 態様別発生状況

区分	発生件数 (件)	(人)	遭難者数				
			死亡	行方 不明	負傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
合計	58	68	1		17	9	41
転倒	22	23			15	8	
病気	13	14	1				13
滑落	3	3			2	1	
疲労	12	18					18
道迷い	8	10					10

(4) 年齢層別発生状況

区分	(人)	遭 難 者 数				
		死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出
合 計	68	1		17	9	41
10 歳 未 満	3					3
10 ～ 19	5				2	3
20 ～ 29	3			1	1	1
30 ～ 39	10			3	2	5
40 ～ 49	8			2		6
50 ～ 59	21	1		6	1	13
60 ～ 69	14			4	3	7
70 ～ 79	4			1		3
80 歳 以 上	0					

(5) 居住地別発生状況

区分	(人)	遭 難 者 数					山 系 別 (人)		
		死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出	富士山	南アルプス	その他
合 計	68	1		17	9	41	49	10	9
静岡県	20			5	3	12	12	2	6
県 外	40			12	4	24	29	8	3
国 外	8	1			2	5	8		

(6) 国籍別発生状況

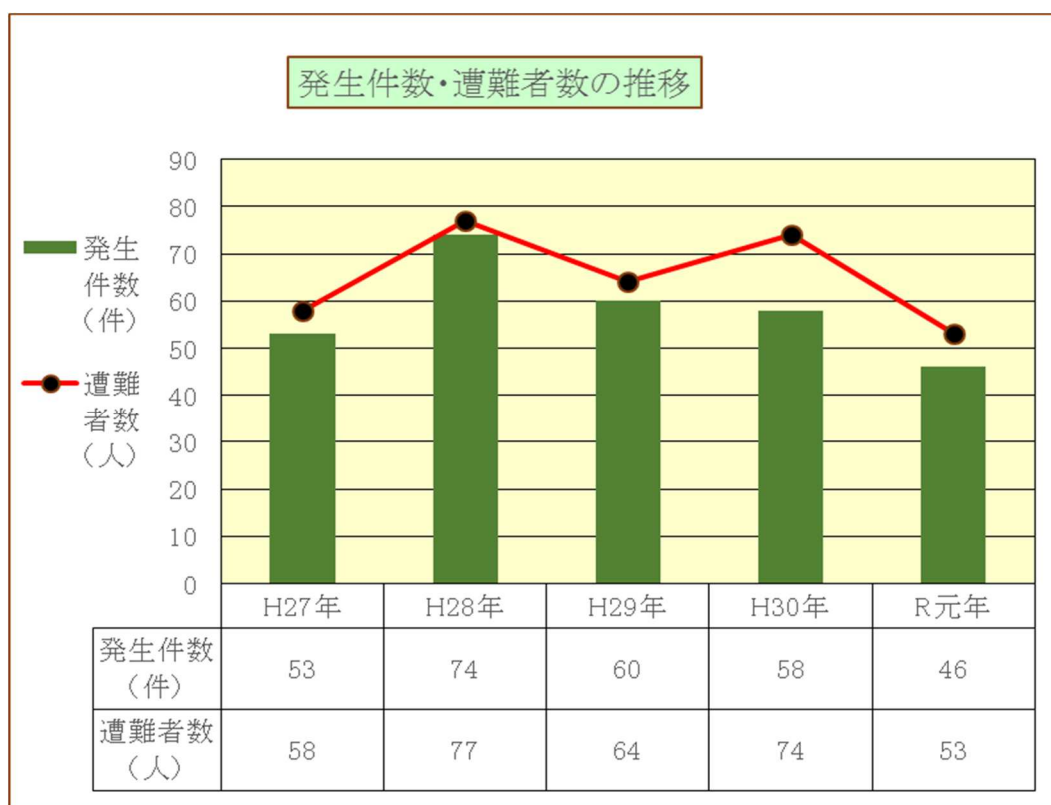
区分	(人)	遭 難 者 数					山 系 別 (人)		
		死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救出	富士山	南アルプス	その他
合 計	68	1		17	9	41	49	10	9
日本人	57			16	6	35	39	10	8
外国人	11	1		1	3	6	10		1

5 富士山における開山期の山岳遭難発生状況

(1) 過去5年の発生状況

区分	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)	遭 難 者 数				
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
平成 27 年	53	58			5	16	37
平成 28 年	74	77	1		9	19	48
平成 29 年	60	64			10	17	37
平成 30 年	58	74	3	1	9	20	41
令和 元年	46	53	1		14	10	28

※ 開山期間 7月10日から9月10日まで



(2) 登山口別発生状況

区 分		発生 件数 (件)	(人)	遭 難 者 数				
				死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
						重傷	軽傷	
富 士 山	富 士 宮 口	24	25			11	6	8
	須 走 口	7	7			2	2	3
	御 殿 場 口	11	16	1		1	2	12
	山 頂 ・ そ の 他	4	5					5
	合 計	46	53	1		14	10	28

※ その他

富士山頂のお鉢巡りや宝永火口付近及び各五合目より標高が低い場所等をいう。

(3) 態様別発生状況

区 分	発生 件数 (件)	(人)	遭 難 者 数				
			死亡	行方 不明	負 傷		無事 救出
					重傷	軽傷	
合 計	46	53	1		14	10	28
転倒	23	24			14	10	
病気	10	11	1				10
疲労	11	15					15
道 迷 い	2	3					3

(4) 年齢層別発生状況

区分	(人)	遭 難 者 数				
		死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	53	1		14	10	28
10歳未満	3					3
10～19	5				2	3
20～29	3			1	1	1
30～39	10			3	4	3
40～49	7			2		5
50～59	15	1		4	1	9
60～69	8			3	2	3
70～79	2			1		1
80歳以上	0					

(5) 居住地別発生状況

区分	(人)	遭 難 者 数				
		死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	53	1		14	10	28
静岡県	14			4	2	8
県外	28			10	5	13
国外	11	1			3	7

(6) 国籍別発生状況

区分	(人)	遭 難 者 数				
		死亡	行方不明	負 傷		無事救出
				重傷	軽傷	
合 計	53	1		14	10	28
日本人	40			13	6	21
外国人	13	1		1	4	7